

インターネットガバナンスに関する 議論の動向

ICANN At-Large諮問委員会について

ICANN KL会議報告

2004年9月8日

会津 泉

ハイパーネットワーク社会研究所
インターネットガバナンスタスクフォース

<izumi@hyper.or.jp>

WSISワークショップ開催

July 20 8:35 – 10:00

- ALAC、ビジネス、ISP部会共催
- クマー-WGIG事務局長報告
- 200名参加 高い関心
- WGIGのプロセスへ



マークス・クマー WGIG事務局長の報告

- **交渉の歩み**
- **二つの考え方の対立：政府が主導するか、既存の体制を維持するか**
- **インターネットガバナンスWG**
 - 事実調査が先、それからIGの定義をまとめる
 - 報告書はWSISの第2期に提出、検討・必要なら行動をとる
 - WG規模は15人から20人で
 - 政府、民間、市民社会が参加、途上国も重要

クマー報告

- すべての当事者に対等のアクセスを
- プロセスはオープンに、WG会合はクローズだが、その間に「オープンエンド」な対話を
- 途上国の参加が重要
 - 旅費支援だけでなく、途上国政府で議論の動向を追うことが難しい人への人材開発も

WGの作業日程

- 9月20-21日 オープンコンサルテーション会議
- 第2回会議 PrepCom2の直前2月15-16日
- 中間報告をPprepCom2に提出
- 第3回会議 4月または5月
- 報告書 2005年7月に
- WGはジュニスサミットまでのプロセスに付き合う
- WGは、支持母体に報告書の内容を「売る」こと
- その後のプロセスをどうするかは、PrepCom(政府)次第
- WGは徐々に活動を縮小・停止へ

クマー氏

- 目的は、政府およびあらゆる主要な利害当事者がWGに代表されていること
- ICANNの構成母体の参加は、このプロセスに不可欠

ICANNの何が問われたのか

- だれが管理するのか
 - 少数のテクノロジストか、希望者すべてか、その間？
 - 米国中心か、世界中に開かれた仕組みか
 - 商業利益か、幅広い公益か
- 「技術」と「ポリシー」と
 - 本当に「技術管理」に限定なの？
 - 経済利害の決定、個人の権利、言語と文化
- 法的正統性・政治的正統性
 - 国家主権とグローバルコーディネーション
 - 軽視？ (GAC / ccTLD)
 - 実際にはアメリカ政府中心の体制 (ルートサーバー、MoU)
- 自律分散協調の原理が機能するのか？

AtLarge

- アジアがRALOで先行か？
- 北京と台湾の協力・・・
 - CNNIC + TWNIC
- 韓国KRNIC、10月に会議開催
- 11月台北、12月北京、2月京都・・・



2004/9/14

ICANN KL報告 WSIS & AtLarge
Izumi Aizu

ICANN

ユーザーの関与の仕方が課題

- 政府の批判: 公共政策は、技術者ではなく、政府(国民の代表)が扱う
- 民間で自主的にガバナンスを成立させるには、供給側と需要側の双方の参加が必要
- そのためには、ユーザーの関与が必要、そうでなければ、政府の規制・介入が発生
- 現実にどういう仕組みが必要・可能か
 - ALAC/ALS/RALOで組織化の努力
 - ボトムアップの限界・制約も

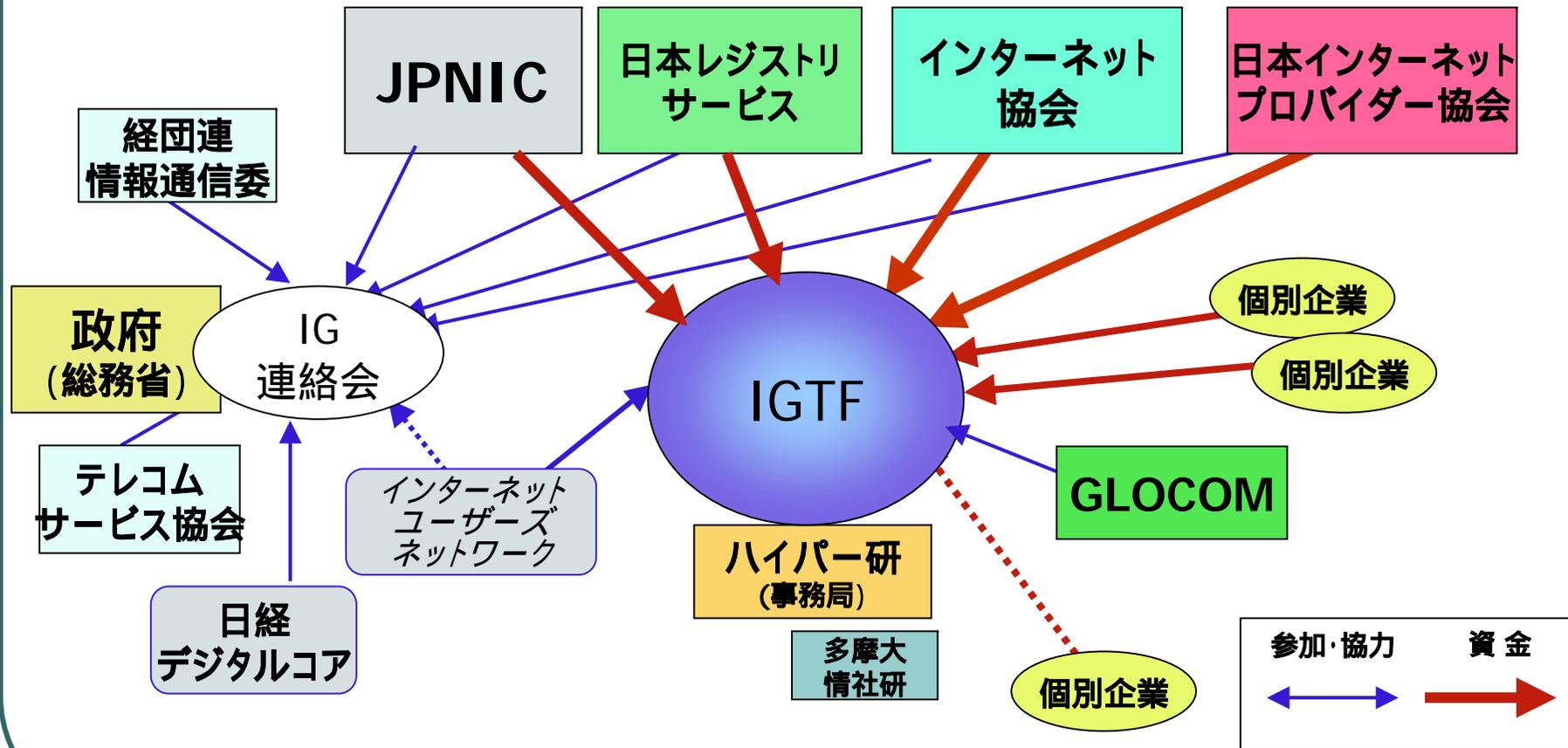
ICANNの非技術的 = 政策課題

- 対NSI：独占の排除、競争導入 経済的問題
訴訟になっている
- 新TLDの創出、選択：経済的問題
- ccTLDの管理 政治問題：国家主権の問題
- iDNS 言語・文化・経済問題
- Whois：プライバシー 個人と組織の権利、利害の問題
- UDRP、WIPO：登録商標権利者との権利摩擦 = 経済問題
- ICAANそのものの意思決定の仕組み
 - 権力配分 政治の問題 経済利害の調整

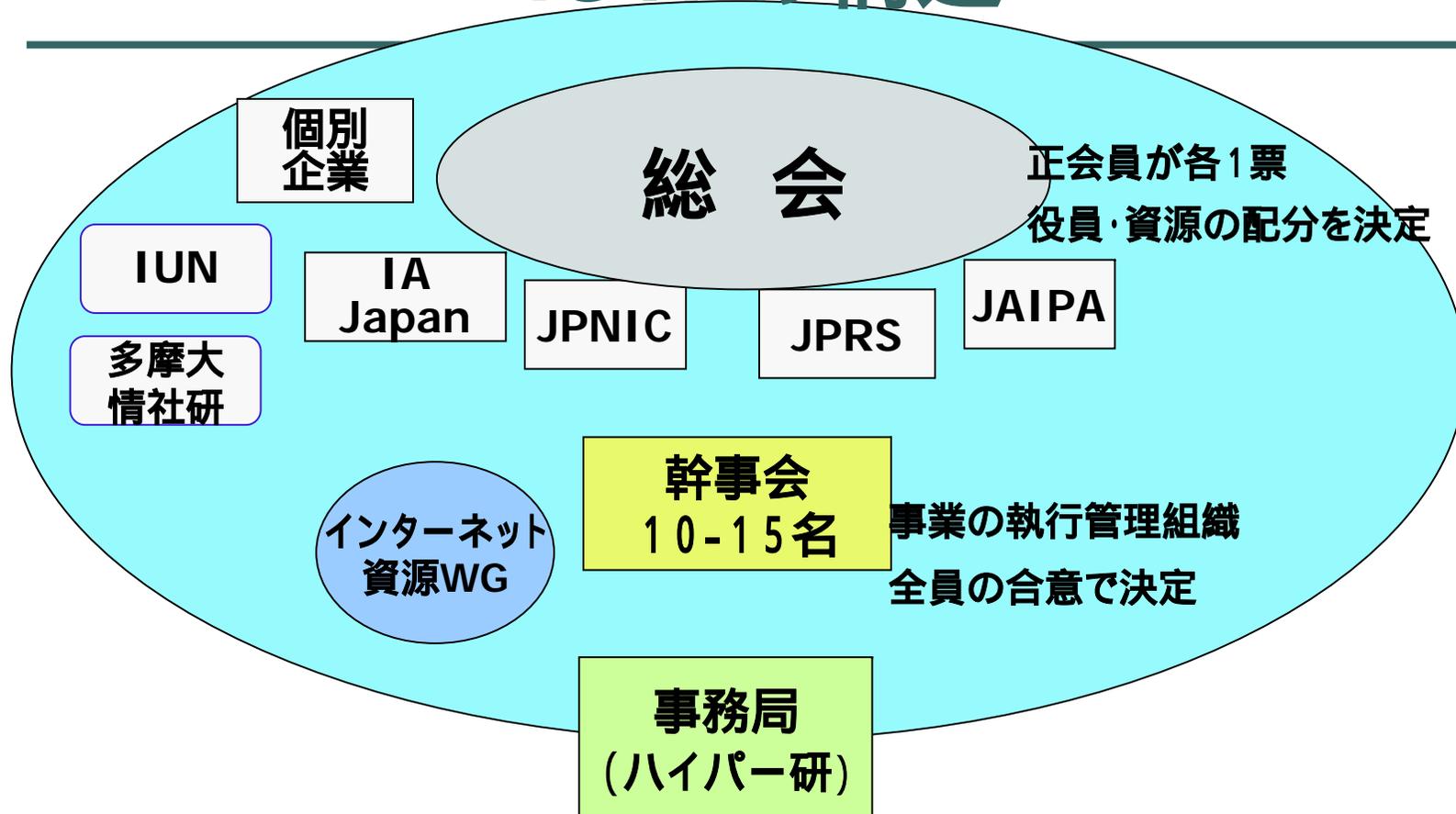
8月20日
インターネットガバナンスタスクフォース
(IGTF) 設立 www.igtf.jp

- **安心・信頼できるネットの運用・利用体制の確立**
 - 民間主導の体制の維持発展
 - 国際協調、政府、利用者/市民とも協力
 - WSIS / WGIGに積極関与
- **JPNIC、JPRS、インターネット協会、日本インターネットプロバイダー協会**
 - 会長: 公文俊平 (多摩大学教授)
 - 代表幹事: 丸山直昌 (JPNIC)
 - 事務局長: 会津泉 (ハイパー研)
 - 事務局: ハイパー研東京事務所 (多摩大学情報社会学研究所内)

インターネットガバナンスTF



IGTFの構造



IGTFの会員

- **正会員**

財団法人インターネット協会 (IAJapan)

日本インターネットプロバイダー協会 (JAIPA)

社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター (JPNIC)

株式会社日本レジストリサービス (JPRS)

- **特別会員**

公文 俊平 (多摩大学教授)

國領 二郎 (慶應義塾大学教授)

坪田 知己 (慶應大学特別研究教授 / 日経デジタルコア代表幹事)

アダム・ピーク (国際大学GLOCOM主幹研究員)

多摩大学情報社会学研究所

ハイパーネットワーク社会研究所

IGTF 役員

会長

公文俊平(多摩大学教授)

副会長

村井 純(JPNIC理事長)

立石聡明(JAIPA常任理事)

会計監事

小泉裕(インターネット協会事務局長)

代表幹事

丸山直昌(JPNIC理事)

幹事

荒野高志

(インテック・ネットコア専務取締役)

高橋 徹(インターネット協会副理事長)

立石聡明(JAIPA常任理事)

坪田知己(慶應大学特別研究教授 / 日経デジタルコア代表幹事)

アダム・ピーク

(国際大学GLOCOM主幹研究員)

樋口貴章

(インターネット協会企画運営会議副議長)

堀田博文(JPRS取締役企画本部長)

前村昌紀(APNIC議長)

事務局長

会津 泉(ハイパーネットワーク社会研究所副所長)

WG1 インターネット資源管理

村上輝康(野村総研理事長)

土屋大洋(慶應義塾大学助教授)

西田隆一(『インターネットマガジン』編集長)

高橋明子(UFJ総合研究所)

浜田忠久(JCAFE代表)

幹事会メンバー:

荒野高志 高橋徹 立石聡明 坪田知己 堀田博文

丸山直昌 前村昌紀 会津泉 アダム・ピーク

IGTFの主な活動

- 国連インターネットガバナンス作業部会 (WGIG)活動への参加を中心に
 - 情報収集、動向の分析
 - 日本からの意見書を作成、まとめ
 - WGIGに提言、意見交換
 - 内外への情報発信・報告
- 民間主導のガバナンスを維持・発展
 - 自律・分散・協調を重視

当面の活動

- 8月31日 IGTF研究会 ゲスト:マーカス・クマー-WGIG 事務局長
- 9月2日 IGTFインターネット資源WG会合
- 9月8日 総務省WSIS連絡会
- 9月9日 IGTF幹事会
- 9月13日 WGIGオンラインコメント締切 **意見書提出**
- 9月20 - 21日 WGIG準備会合(ジュネーブ)
- 10月26日 ソウルでインターネットガバナンス会議
- 11月 WGIG正式設置

9月20-21日コンサルテーション会合に 意見書提出へ

- **WGで原案検討**
- **パブリックコメント(9/7-11)**
- **幹事会で最終決定**

意見書のポイント

- はじめに <略>
- 1 取り組みの範囲
WGIGで、どのようなテーマを取り上げるかは、事前には決まっていない。9月のジュネーブ会合は、この点について世界中の意見を聞き、その結果によって、アナン事務総長がWGIGの人選を進める参考に。
IGTFとしては、特定の問題を指摘する前に、<原則>を示そうとした。
- 2. 基本原理
独立性、客観的、合理的に、透明性
WGIGの性格に2つの対立する考え方：
 1. 政府が主体となってインターネットガバナンス問題の検討をすべきで、WGIGも常に政府代表にその内容を報告し、チェックを受けるべき
 2. 各国政府の政治的交渉は非生産的、政府の介入からは独立、政府、産業界、市民社会が対等の立場でWGIGを構成し、客観的な事実を正確に把握することを重視すべき
- IGTFは後者の立場を支持

意見書のポイント (続)

3 構成全般

1) 構成について

報告書の執筆に専念できる20人以内の少人数に
各分野・地域のバランスなどを考え、ある程度の規模は当然
WGIG事務局長は少人数を希望、バランスを考えると、絞るのはかなり難しい
それぞれ一理あり、IGTFは、両者の妥協として、本委員は20名以内、小委員会で20名
ほど追加できるように提案

● 2) 構成員の資質

大物政治家、企業トップなどのいわゆる「ハイレベル」の人選にして権威をもたせ
実質を重視し、必要な時間、専門知識を投入できる実務家重視
IGTFは、後者を重視

● 4 取り組み方法について

● オープンおよびクローズドな会合

オープン性を高めるために、委員会の前に、必ずコンサルテーション会合の開催を

● 言語

英語を母国語としない、欧米語に馴染まないアジアの立場からとくに重視し、通常の国連の会合以上に配慮することを求め、最新技術の活用や、ウェブ経由でのボランティアな翻訳のプラットフォームの設置を提案

会議の連続

- 2月 APRICOT2004 (クアラルンプール)
ITU インターネットガバナンスWS (ジュネーブ)
- 3月 **ICANN (ローマ)** UNICT TF インターネットガバナンスRT(NY)
- 5月 INET04 (バルセロナ)
- 6月 WSIS PrepCom1 (チュニジア)
- 7月 **ICANN (クアラルンプール)**
- 9月 WGIGオープン会議(ジュネーブ) インターネットガバナンス会議(ロンドン)
- 10月 インターネットガバナンス会議(ソウル)
- 11月 アジア・シビルソサエティ・フォーラム(バンコク)
WGIG設置(ジュネーブ)
- 12月 **ICANN (ケープタウン)**
- 2月 WSIS PrepCom2 (ジュネーブ) APRICOT(京都)
- 3月 **ICANN(ブエノスアイレス)**
- 7月 WSIS WGIG結論
- 9月 WSIS PrepCom3
- 11月 WSIS II チュニジア

Thank you and see you online



会津 泉

Izumi Aizu

<izumi@hyper.or.jp>